

Career Improvement

日本人の渡航先、留学先として根強い人気を誇るオーストラリア。豊かな大自然や大らかな国民性、そして治安の良さから、明るくのびのびとした国という印象が強いが、オーストラリアの魅力はそれだけにとどまらない。オーストラリア大使館のミッシェル・アラン教育参事官にお話を伺った。



Reasons to study abroad in Australia

●「多様性」の国、オーストラリア

英語のスキルアップは英語圏への留学の目的のひとつだが、何をどういう環境で学ぶかを考えたとき、オーストラリアの魅力が見えてくる。

オーストラリアを語る際にキーワードとなるのが「多様性」だ。「移民国家なので民族も文化も多種多様です。留学生として生活するなかでさまざまな価値観に触れることができ、グローバルな視点で思考する習慣が身につきます。また、オーストラリアは広大な国なので、街も自然環境もバラエティに富んでいます。ビーチスタイルを楽しみたければ東海岸、文化的な雰囲気を好むならメルボルンというように、自分に合った街や環境を選ぶことができます」とアラン氏は語る。



オーストラリア大使館
ミッシェル・アラン参事官(教育)

また、学術面でも多彩で、とくに観光や大型家畜に関する分野はオーストラリアならではの学問だ。クィーンズランド州の沖合には世界最大の珊瑚礁グレート・バリア・リーフがあり、同州の大学では熱帯科学の分野で世界的に有名な研究を行っている。短期の語学留学だけでなく、大学に正規入学して専門的に学ぶ留学先としても、素晴らしい環境が整っているのだ。



●「教育」の国、オーストラリア

オーストラリアは、サービス業の第一位が教育部門という教育大国。充実した環境と柔軟な制度が特徴で、留学生へのサポート体制は世界的にも群を抜いている。

専門学校や大学への入学は間口が広く、学ぶ意欲がある学生にはとてもオープンだ。「語学学校やファンデーション・スタディー(大学進学準備過程)へ通ってから進学することも可能で、自分のスキルレベルに合わせて段階的にグレードアップできます。1年目はダメでも再チャレンジできますし、レベルが上がれば大学間の転校なども可能で、日本に比べてとても流動的なシステムになっています。「進路」には決まった道があるのではなく、さまざまなアプローチがあるべきです」。大学では社会人入学も盛んで、「学生といってもいろんな年齢の人がいます。国籍だけでなく年齢を越えたクラスメートとの交流からは、得るものが大きいはずですよ」とアラン氏は語る。

また、オーストラリアには留学生を保護する法制度が整っている。留学生を受け入れるすべての教育機関はCRICOS(留学生向け教育機関・コースの政府登録)に登録を義務づけられており、学生ビザで留学する場合は、万一教育機関やコースが機能しなくなった際にも返金や他校への振り替えが保証されるのだ(ESOS法)。これだけ充実した保証制度があるのは世界でもオーストラリアだけだという。政府が管理を行っているため大学などの教育レベルは均質かつ高質で、いわゆる「ハズレ」もない。また、週20時間までは就労も許可されておりアルバイトをしながら学ぶことも可能で、金銭的な不安も軽減できる。

●若いうちに海外経験を積むことの重要性

世界各国から留学生が集まるオーストラリアだが、とくに日本人にとってのメリットは多いという。「オーストラリアは親日国で、日本語を話せる人や日本文化に造詣の深い人がたくさんいます。治安も良いですし、日本人にとってはとても居心地が良いと思います」。

しかし、日本人留学生の数は2004年をピークに減少傾向にある。「最近、日本に元気がないと感じます。若者も海外志向が低く、日本の将来を考えると不安です」とアラン氏は語る。大使館や教育機関、地方自治体などが連携し、今後は2国間の大学や高校での単位互換制度などを拡充し、日本人学生が留学しやすい環境を整える計画だという。

「日本も今後、国際化の時代を迎えるでしょう。移民や外国人労働者が増えると、いろんなバックグラウンドを持つ人と協同する必要性が出てきます。海外経験があれば、日本の新しい社会にも対応できると思うのです」とアラン氏は熱く語ってくれた。

"The test was with a real person rather than a machine, so I felt really comfortable"

IELTS